

3. 平成21年度の予定

3-1. 湿原再生に向けた現地試験計画

試験の目的：湿原再生目標を達成するための方策検討に当たり、地下水位と植生の関係を調査し、基礎データを収集する。

試験の内容：表土層の掘り下げにより地表面を地下水面に近づける。
地下水面の深度ごとに植生変化状況の観測・観察を行う。

現地試験計画(案)

現地試験計画(案)	目的	・ 湿原再生目標を達成するための方策検討に当たり、地下水位と植生の関係を調査し、基礎データを収集する。
	条件	・ 隣接農地に地下水位上昇等の影響が及ばない方法とする。
	内容	・ 試験区を設定し、表土層の掘り下げにより地表面を地下水面に近づける。 ・ 地下水面の深度ごとに植生変化状況の観測・観察を行う。
	対象地	・ 地下水面が地表面から約50cmと深く、様々な深度設定で掘削できるA区域とする(右図)。



試験対象地(A区域)位置図

3-1. 湿原再生に向けた現地試験計画

平成21年度に現地調査を実施し、年間を通じて地下水位の観測および植生変化状況の観察を行う。

現地試験計画(案)

現地試験計画(案)	実施期間	<ul style="list-style-type: none"> 平成21年度中を予定。
	調査項目	<ul style="list-style-type: none"> 地下水位の観測 植生変化状況の観察
	調査方法	<ul style="list-style-type: none"> 地下水位は、既設の地下水位観測施設を活用して継続的な観測を行う。 植生は、2～3回/年程度の頻度で変化状況の観察を行う。
	調査実施後の予定	<ul style="list-style-type: none"> 調査結果は、平成21年度の小委員会で報告する。 調査結果、小委員会での議論等を踏まえ、その後の予定を検討する。



試験対象地(A 区域)位置図

3-2. 現地試験の実施 試験実施位置

試験実施位置：次の観点で図に示す位置で試験を実施する。

- ・ 地下水面が地表面から約50cmと深く、様々な深度設定で掘削できる。
- ・ 村道から近いいため、掘削、地下水位観測、植生観察などを行う上で利便性が良い。
- ・ 近くに既設の自記記録地下水位観測地点がある。



- 凡例
- : 湿原植生回復試験実施位置
 - : 地下水観測地点(既設)

現地試験の実施位置図

3-2. 現地試験の実施 試験地の現状の地下水位

試験地の平均的な地下水面の深さ：現状、地表面から約50cmの深さ

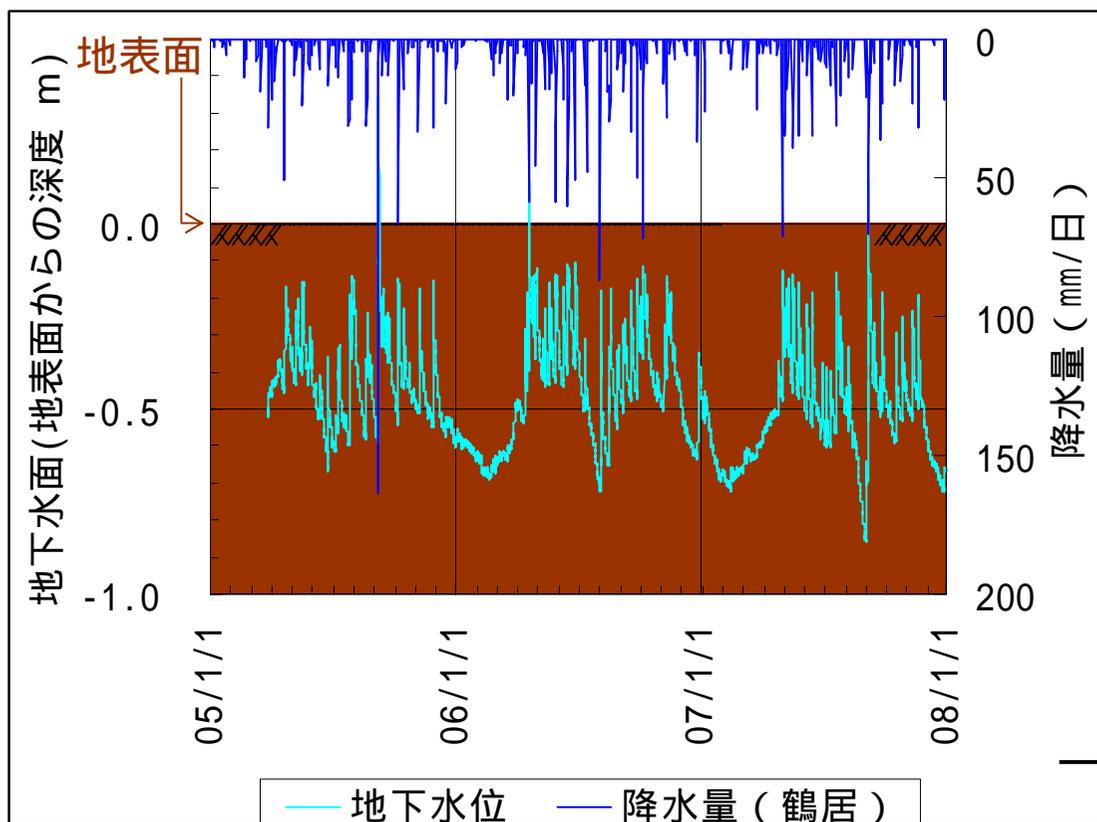


図 地下水位観測結果 (試験地近傍)

試験地の平均的な地下水面の深さ → 現状、地表面から約50cmの深さ



現地試験の実施位置図

3-2. 現地試験の実施 試験区の概要

試験区の概要：地表面と地下水位の関係が異なる3つの試験区を設ける。

試験区の概要

掘削深さを変えた3つの試験区を設ける。

各試験区の平面形は10m×10m、掘削深さは下表の通りとする。

(平面形については、次のスライドで説明)

表 各試験区の掘削深さ一覧

区 域	地表面から地下 水面までの深さ (現状)	地表面から地下 水面までの深さ (目標)	試験区の 掘削深さ
A 区域	約50cm →	約20cm	区域 : 約30cm
B 区域	約20cm →	約10cm	区域 : 約40cm
C 区域	約10cm →	約0cm	区域 : 約50cm
D 区域	地表面付近 (深さ0cm)		



凡例 ● : 地下水位観測地点(既設)

幌呂地区のエリア区分図

3-2. 現地試験の実施 試験地の形状

試験地の形状：地表面と地下水位の関係に着目して深さを変えた10m四方の試験地を3区画設ける。

